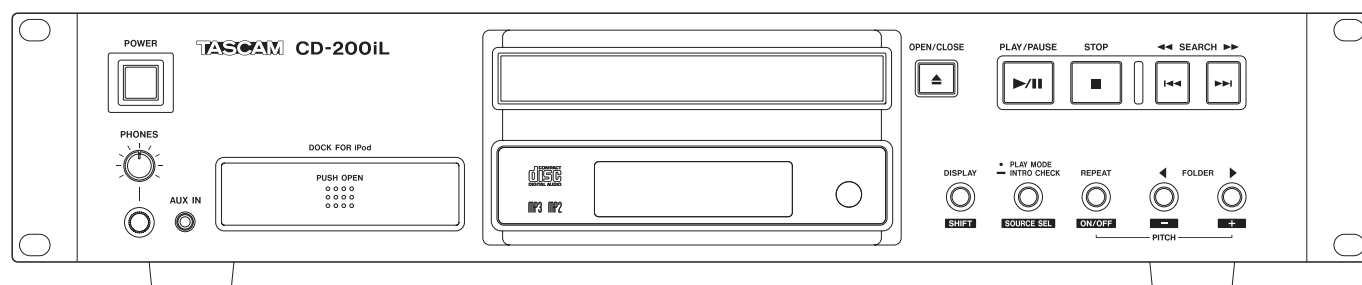
TASCAM

D01206201C

CD-200iL

CD Player / iPod Dock

取扱説明書

Made for iPod iPhone

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項を良くお読みください。

警告	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
 電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出た、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落とした、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。
 指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に交換をご依頼ください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	ラックなどに入れるときは、機器の天面から2U以上、背面から10cm以上の隙間を空ける 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。
 禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
 分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す** コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書を良く読み、電源を切り、説明にしたがって接続する** **また、接続は指定のコードを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。また、モニター機器などの破損の原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。
注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

電池の取り扱いについて

本機に付属するワイヤレスリモコンは、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

警告 乾電池に関する警告

禁止	**乾電池は絶対に充電しない** 破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

警告 電池に関する警告

強制	**電池を入れるときは、極性表示（プラスとマイナスの向き）に注意し、電池ケースに表示されている通りに正しく入れる** 間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液が漏れて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液を良く拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水で良く洗い流してください。
禁止	**指定以外の電池は使用しない** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない** 破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなる場所で保管しない 本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。

注意 電池に関する警告

禁止	**金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。** ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。
	電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	**分解しない** 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

目次

第1章　はじめに

このたびは、TASCAM CD Player / iPod Dock CD-200iLをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書を良くお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してください。
また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- オーディオCD（CD-DA）の他に、WAV形式、MP3形式およびMP2形式のファイルを収録したデータCD（CD-ROM/R/RW）の再生が可能
- 2U、EIAラックマウントサイズ
- アナログ出力（RCA）およびデジタル出力（コアキシャルおよびオプティカル）を装備
- ヘッドホンによるモニターが可能
- 数字ボタン（**0** ～ **9**ボタン）を装備したワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200iL）を付属
- CDテキストおよびID3タグに対応し、文字情報（アーティスト名、アルバム名、トラック名など）の表示が可能
- 3種類の再生モード（連続再生、シャッフル再生、プログラム再生）
- リピート再生機能（シングルリピート、オールリピート）
- ピッチコントロール機能（CD再生時、可変幅±14%）
- イントロチェック機能
- データCDのフォルダー再生機能
- 時間表示（オーディオCDはトラック経過時間、トラック残時間または総残時間、データCDは総経過時間）が可能
- 10秒のショックプルーフメモリー（音飛びガード）を搭載（CD再生時）
- Lightningコネクター／ 30ピンドックコネクタータイプのiPod ／ iPhoneドックを搭載し、変換アダプターなしでiPod ／ iPhoneの再生音の出力、コントロール、充電が可能
- ステレオミニジャックのオーディオライン入力端子を装備、iPod ／ iPhone以外のポータブルオーディオ機器の音声入力が可能

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。
梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管してください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200iL）　x1
- 単3形乾電池　x2
- ラックマウントビスキット　x1
- 保証書　x1
- 取扱説明書　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**DISPLAY**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **“REPEAT”** のように **“__”** で括って表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。
- MP3オーディオファイルやMP2オーディオファイル、またはWAVオーディオファイルを記録したCDを「データCD」と表記します。
- 本機で再生可能なMP3 ／ MP2 ／ WAVファイルの総称として「音楽ファイル」と表記する場合があります。
- 「オーディオCD」、「データCD」を総称して、「CD」と表記する場合があります。
- 現在セットされているCDのことを「カレントCD」と表記します。
- 現在選択中のソースのことを「カレントソース」と表記します。
- 現在選択中のフォルダーのことを「カレントフォルダー」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント
本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ
補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

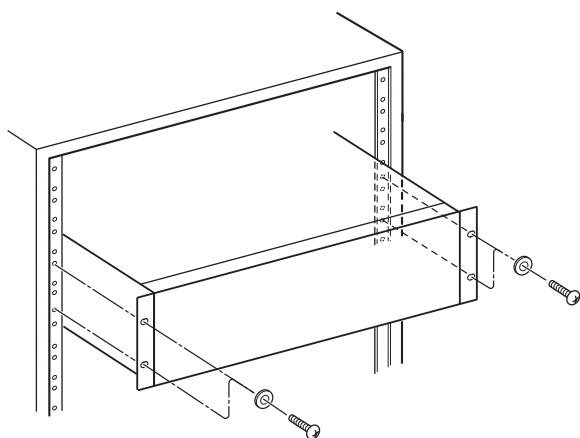
注意
指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- 「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれ、iPod または iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本アクセサリを iPod または iPhone と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。
- iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～ 35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所
  窓際などの直射日光が当たる場所
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  極端に温度が低い場所
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスを使って、下図のように取り付けてください。なお、本製品のiPod ／ iPhoneドックをご使用になる場合は、本機の上側に設置された機器との干渉を避けるため、本製品の上に2U以上のスペースを空けてください。

電源について

- AC100V (50-60Hz) 以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1 ～ 2時間放置してから電源を入れてお使いください。

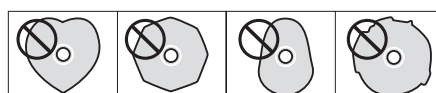
製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

CD（コンパクトディスク）について

本機は、市販の音楽CDの他に、オーディオCD（CD-DA）形式で記録したCD-RやCD-RWディスク、MP3オーディオファイルやMP2オーディオファイル、あるいはWAVオーディオファイルを記録したCD-ROMやCD-R/RWディスクを再生することができます。また、8cmCDの再生も可能です。

取り扱い上の注意

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号記録面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号記録面に指紋やほこりが付いた場合は、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがした跡があるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にセットすると、ディスクが取り出せなくなる、または故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できない、または故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。

- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に準拠していないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

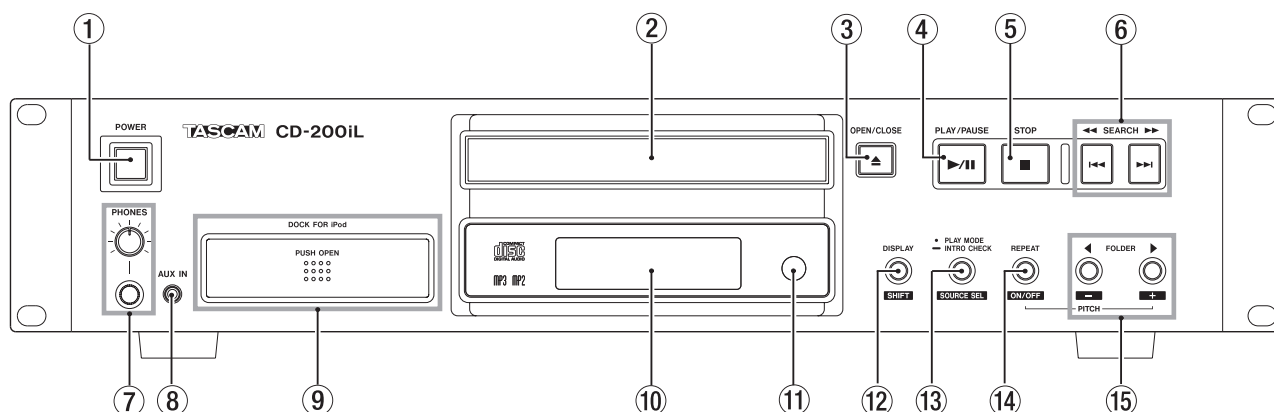
ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願い致します。

http://tascam.jp/support/registration/

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（裏表紙に記載）が無償修理致します。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理致します。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番（CD-200iL）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、裏表紙をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

フロントパネル

① POWERスイッチ

電源をオン／オフします。

注意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

② ディスクトレー

OPEN/CLOSEボタンを押してディスクトレーを開け、ディスクのセット／取り出しを行います。

ディスクトレーを閉じるときは、OPEN/CLOSEボタンを押します。

③ OPEN/CLOSEボタン

ディスクトレーを開閉します。

④ PLAY/PAUSEボタン

停止中または一時停止中に押すと、再生を開始します。

再生中に押すと、一時停止状態になります。

⑤ STOPボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、CDの再生を停止します。

プログラム設定モード中にトラックを選択した状態でこのボタンを押すとトラック選択が中止され、再びトラックが選択できる状態に戻ります。（→ 22ページ「プログラムを設定する」）

また、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態のときにこのボタンを押すと、登録したプログラムが全て消去されます。（→ 24ページ「プログラムを消去する」）

⑥ SEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I] ボタン

このボタンを押すと、トラック選択（スキップ）を行います。

このボタンを押している間、サーチを行います。

⑦ PHONESジャック／つまみ

ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ジャックです。ミニプラグのヘッドホンを接続する場合は、変換アダプターをご使用ください。

PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑧ AUX IN端子

ステレオミニジャックのオーディオライン入力端子です。

ポータブルデジタルプレイヤーなどの外部オーディオ機器を接続します。

注意

外部機器をAUX IN端子に接続する前には、外部機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑨ iPod ／ iPhoneドック

Lightningコネクターと30ピンドックコネクターに対応したiPod ／ iPhoneドックです。（→ 14ページ「iPod ／ iPhoneの接続」）

メモ

30ピンドックコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続する場合は、必ずお手持ちのiPod ／ iPhoneに適合するドックアダプターを30ピンドックコネクターに取り付けてください。ドックアダプターは、同梱しておりません。iPod ／ iPhoneに付属または市販のApple Inc. 製のApple (iPod) Universal Dockアダプターをご使用ください。

⑩ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑪ リモコン受光部

付属のワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200iL）の信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

⑫ DISPLAY [SHIFT] ボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、ディスプレーに表示される時間情報や文字情報の内容を切り換えます。（→ 25ページ「時間や文字情報の表示」）

また、このボタンを他のボタンと同時に押すことにより、シフト機能（各ボタンの下に白抜き文字で表示）の操作をします。

⑬ PLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL] ボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、再生モードを切り換えます。再生モードには、連続再生モード、シャッフル再生モード、プログラム再生モードの3種類があります。（→ 20ページ「再生モード」）
また、再生中あるいは停止中にこのボタンを押し続けると、イントロチェック再生を行います。イントロチェック再生中に、再度このボタンを押し続けると通常再生モードに戻ります。（→ 26ページ「イントロチェック機能」）
カレントソースが **"-DOCK-"** のときにこのボタンを押すと、iPod ／ iPhoneのシャッフル再生モードを切り換えます。（→ 27ページ「iPod ／ iPhoneのコントロール」）
DISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、カレントソースを以下の順で切り換えます。（→ 18ページ「出力する音源（カレントソース）を選択する」）

→ CD → DOCK→ AUX IN

[カレントソース・切り換え順]

メモ

"-DOCK-" または **"-AUX-"** については、機器が接続されていない場合は選択できません。

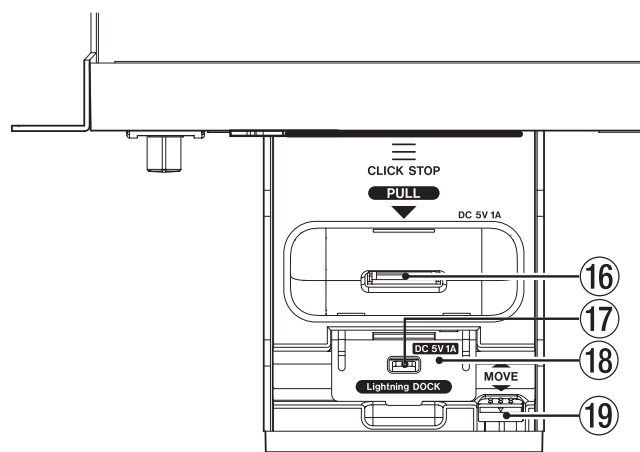
⑭ REPEAT [PITCH ON/OFF] ボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、リピート再生機能のオン／オフとリピート再生モードを選択します。（→ 24ページ「リピート再生」）
また、DISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、ピッチコントロール機能のオン／オフを行います。（→ 26ページ「ピッチコントロール再生」）

カレントソースが **"-DOCK-"** のときにこのボタンを押すと、リピート再生モードの切り換えを行います。（→ 27ページ「iPod ／ iPhoneのコントロール」）

⑮ FOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH −／ +] ボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにデータCDがセットされている場合、これらのボタンを押すと再生対象となるフォルダーが切り換わります。（→ 21ページ「フォルダー再生（データCDのみ）」）
また、DISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらこれらのボタンを押すと、CDのピッチコントロール値を設定します。（→ 26ページ「ピッチコントロール再生」）
カレントソースが **"-DOCK-"** のときにこれらのボタンを押すと、iPod ／ iPhoneのアルバムスキップ（アルバム選択）を行います。（→ 27ページ「iPod ／ iPhoneのコントロール」）

iPod ／ iPhoneドック

⑯ 30ピンドックコネクター

iPod ／ iPhoneを接続するコネクターです。

メモ

30ピンドックコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続する場合は、必ずお手持ちのiPod ／ iPhoneに適合するドックアダプターを30ピンドックコネクターに取り付けてください。ドックアダプターは、同梱しておりません。iPod ／ iPhoneに付属または市販のApple Inc. 製のApple (iPod) Universal Dockアダプターをご使用ください。

⑰ Lightningコネクター

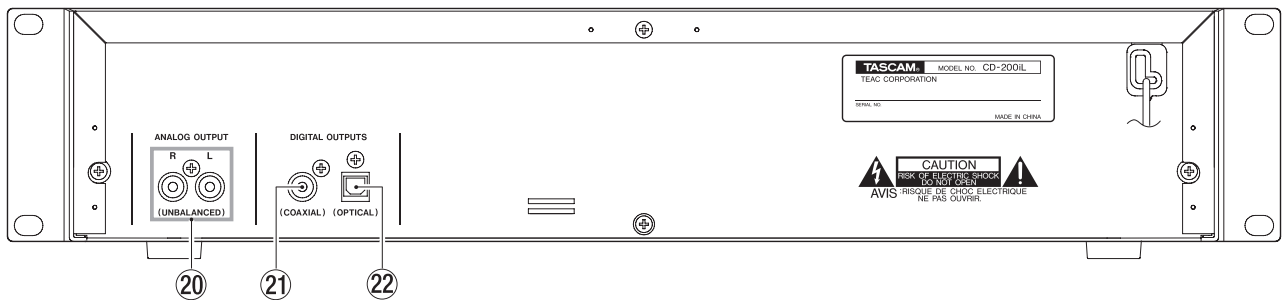
Lightningコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続するコネクターです。

⑱ バックストップ

バックストップを起こしてから、Lightningコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続します。

⑲ ロック解除レバー

iPod ／ iPhoneドックを収納する際に、ロックを解除するレバーです。
iPod ／ iPhoneドックを収納するときは、このレバーを引きながら、パネル面を押してください。

リアパネル

⑳ ANALOG OUTPUT（UNBALANCED）端子

CD ／ iPod ／ iPhoneの再生音声信号、もしくは**AUX IN**端子の入力信号を、アナログ出力します（基準出力：-10dBV）。

㉑ DIGITAL OUTPUTS（COAXIAL）端子

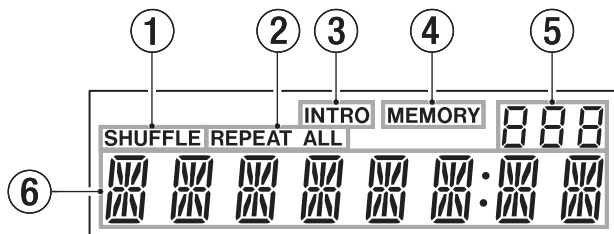
CD ／ iPod ／ iPhoneの再生信号を、S/PDIFフォーマットでデジタル出力します。

㉒ DIGITAL OUTPUTS（OPTICAL）端子

CD ／ iPod ／ iPhoneの再生信号を、S/PDIFフォーマットでデジタル出力します。

メモ

- iPod ／ iPhone本体がデジタル出力に対応していない機種に関しては、CD-200iL本体からのデジタル音声信号は出力されません。
- データCD再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は、再生ファイルのサンプリング周波数に関わらず44.1k Hzに変換されて出力されます。
- **AUX IN**端子に入力された音声は、アナログ音声出力のみとなっております。デジタル音声は出力はされません。
- CD再生時、ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。

ディスプレー

① シャッフル再生モード表示

カレントソースが **“-CD-”** のとき、再生モードをシャッフル再生モードにすると **“SHUFFLE”** を表示します。
カレントソースが **“-DOCK-”** のとき、曲シャッフル再生モードの場合には **“SHUFFLE”** を表示し、アルバムシャッフル再生モードの場合には **“SHUFFLE”** を点滅表示します。

② リピート再生モード表示

シングルリピートのときは **“REPEAT”** を、オールリピートのときは **“REPEAT ALL”** を表示します。

③ イントロチェック機能表示

イントロチェック機能がオンのときに **“INTRO”** を表示します。
（→ 26ページ「イントロチェック機能」）

④ プログラム再生モード表示

プログラム再生モード時に **“MEMORY”** を表示します。
プログラム設定時は、点滅表示します。

⑤ カレントCD表示部

オーディオCDをセットしている場合は、**“cd”** を表示します。
データCDをセットしている場合、フォルダー再生機能がオフのとき **“ALL”** を表示し、フォルダー再生機能がオンのときはフォルダー番号を表示します。（→ 21ページ「フォルダー再生（データCDのみ）」）

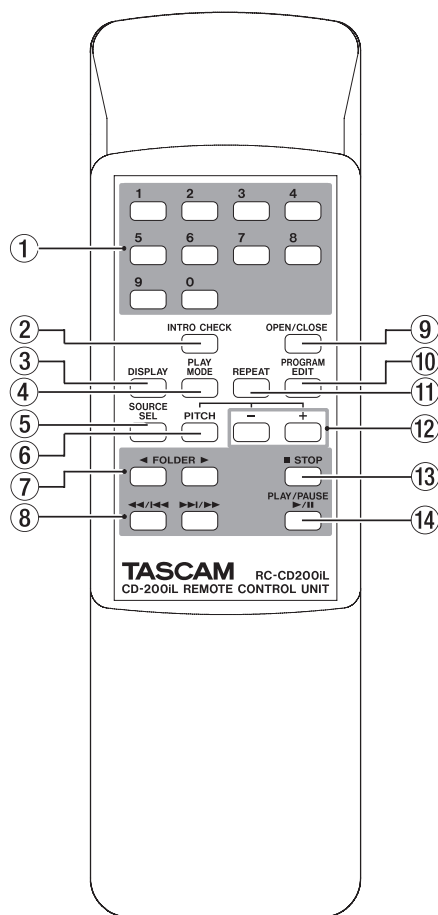
⑥ メイン表示部

トラック番号／時間表示または文字情報表示を行います。また、本機の状態（**“OPEN”**、**“CLOSE”**、**“TOC* READ”** など）やメッセージ（ **“NO DISC”** など）の表示も行います。
8文字を超えるものは、スクロール表示します。

＊TOC：Table Of Contents ＝ ディスクに書かれているトラック情報

注意

接続されるiPod ／ iPhoneによっては、iPod ／ iPhone本体とCD-200iL本体の **“SHUFFLE”**、**“REPEAT”** 表示に不一致が生じる場合があります。現在のiPod ／ iPhoneの再生モードおよびリピート再生モードの確認は、iPod ／ iPhone本体で行ってください。

ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200iL）

① 数字ボタン（0 ～ 9ボタン）

数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使ってトラック番号を指定して選曲することができます。（→ 21ページ「トラック番号を指定する」）
トラック番号は、オーディオCDの場合は最大2桁、データCDの場合は最大3桁です。

② INTRO CHECKボタン

カレントソースが **"-CD-"** のとき、再生中あるいは停止中にこのボタンを押すと、イントロチェック再生を行います。イントロチェック再生中に、再度このボタンを押すと通常再生モードに戻ります。（→ 26ページ「イントロチェック機能」）

③ DISPLAYボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、ディスプレーに表示される時間情報や文字情報の内容を切り換えます。（→ 25ページ「時間や文字情報の表示」）

④ PLAY MODEボタン

カレントソースが **"-CD-"** のとき、再生モードを切り換えます。
再生モードには、連続再生モード、シャッフル再生モード、プログラム再生モードの3種類があります。（→ 20ページ「再生モード」）
カレントソースが **"-DOCK-"** のとき、iPod ／ iPhoneのシャッフル再生モードを切り換えます。（→ 27ページ「iPod ／ iPhoneのコントロール」）

⑤ SOURCE SELECTボタン

カレントソースを以下の順で切り換えます。（→ 18ページ「出力する音源（カレントソース）を選択する」）

→ CD → DOCK→ AUX IN

[カレントソース・切り換え順]

メモ

"-DOCK-" または **"-AUX-"** については、機器が接続されていない場合は選択できません。

⑥ PITCHボタン

CD再生のピッチコントロール機能のオン／オフを行います。（→ 26ページ「ピッチコントロール再生」）

⑦ FOLDER ◀ ／ ▶ ボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにデータCDがセットされている場合、これらのボタンを押すと再生対象となるフォルダーが切り換わります。（→ 21ページ「フォルダー再生（データCDのみ）」）
カレントソースが **"-DOCK-"** のとき、これらのボタンを押すとiPod ／ iPhoneのアルバムスキップ（アルバム選択）を行います。（→ 27ページ「iPod ／ iPhoneのコントロール」）

⑧ ◀◀ / I◀◀ ／ ▶▶ / ▶▶I ボタン

このボタンを押すと、トラック選択（スキップ）を行います。
このボタンを押している間、サーチを行います。

⑨ OPEN/CLOSEボタン

ディスクトレーを開閉します。

⑩ PROGRAM EDITボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、プログラムの設定、確認、編集を行います。（→ 22ページ「プログラム再生」）

⑪ REPEATボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、リピート再生機能のオン／オフとリピート再生モードを選択します。（→ 24ページ「リピート再生」）
カレントソースが **"-DOCK-"** のときにこのボタンを押すと、リピート再生モードの切り換えを行います。（→ 27ページ「iPod ／ iPhoneのコントロール」）

⑫ －／＋ ボタン

CD再生に対するピッチコントロール値を設定します。（→ 26ページ「ピッチコントロール再生」）

⑬ STOPボタン

カレントソースが **"-CD-"** のときにこのボタンを押すと、CDの再生を停止します。
プログラム設定モード中にトラックを選択した状態でこのボタンを押すとトラック選択が中止され、再びトラックが選択できる状態に戻ります。（→ 22ページ「プログラムを設定する」）
また、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態のときにこのボタンを押すと、登録したプログラムが全て消去されます。（→ 24ページ「プログラムを消去する」）

⑭ PLAY/PAUSEボタン

停止中または一時停止中に押すと再生を開始します。
再生中に押すと、一時停止状態になります。

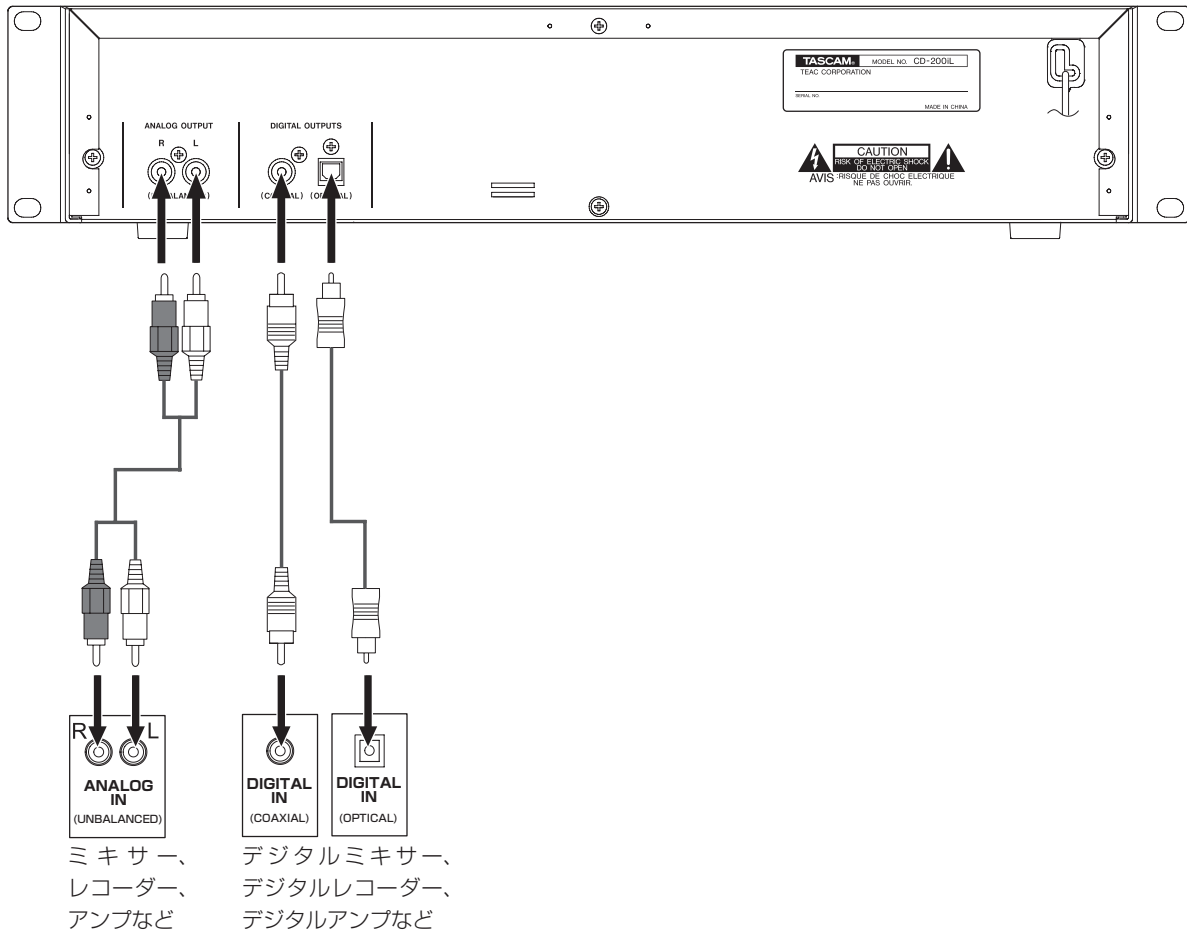
接続する

以下に、CD-200iLの接続例を示します。

接続前の注意

- 接続を行う前に、外部機器の取扱説明書を良くお読みになり、正しく接続してください。
- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。

ミキサー、レコーダー、アンプなど

デジタルミキサー、デジタルレコーダー、デジタルアンプなど

アナログオーディオ機器との接続

本機のアナログ出力端子をステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどのアナログ入力端子に接続します。

メモ

- 本機には、ケーブルが付属されていません。
- ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因となります。

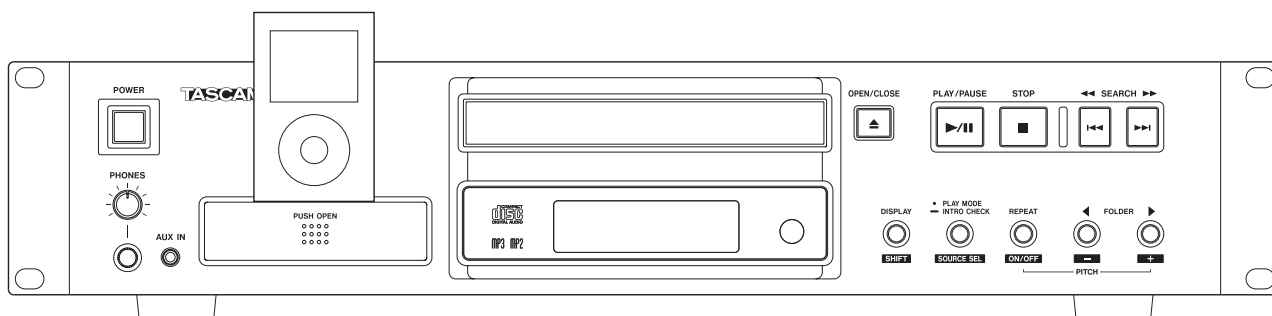
デジタルオーディオ機器との接続

本機のデジタル出力端子（COAXIALまたはOPTICAL）をステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどのデジタル入力端子に接続します。

メモ

- データCD再生時、本機のデジタル出力のサンプリング周波数は、再生ファイルのサンプリング周波数に関わらず44.1k Hzに変換されて出力されます。
- AUX IN端子に入力されたアナログ音声をデジタル音声に変換して出力することは出来ません。
- CD再生時、ピッチコントロール機能がオンの場合は、デジタル音声出力信号のサンプリング周波数がピッチコントロール値の分だけ変動します。その場合、機器によっては本機のデジタル音声出力信号を受信できない場合があります。

iPod ／ iPhoneの接続

フロントパネルのiPod ／ iPhoneドックにiPod ／ iPhoneを装着し、本機よりiPod ／ iPhoneの音声の出力およびコントロールを行うことができます。また、iPod ／ iPhoneを充電することも可能です。

注意

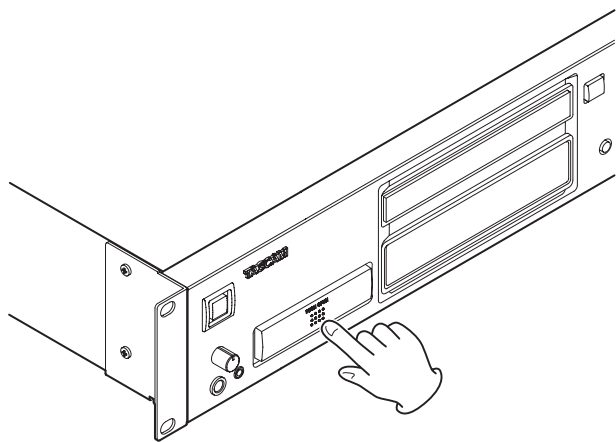
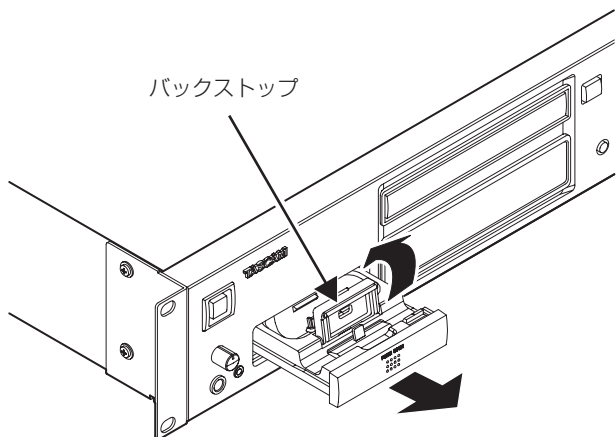
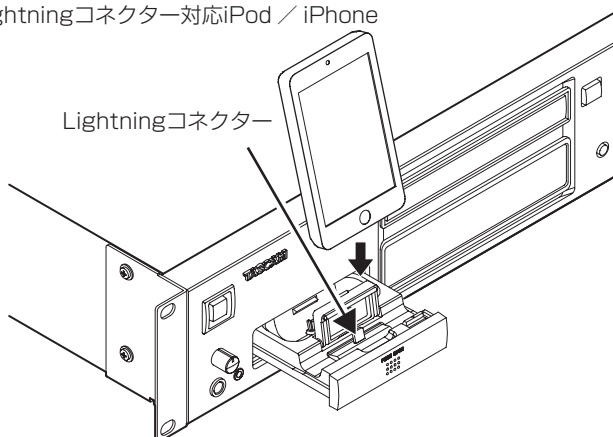
- 本機のiPod ／ iPhoneドックにiPod ／ iPhoneを設置した場合は、iPod ／ iPhone本体が本機の高さを超えます。本機の上側に設置された機器との干渉を避けるため、本機の上は2U以上のスペースを空けてください。
- Lightningコネクターまたは30ピンドックコネクターを備えていないiPod ／ iPhoneに関してはドックに装着できません。**AUX IN**端子を用いて接続してください。（→ 17ページ「外部入力端子への接続」）
- iPod ／ iPhoneを装着する場合は、必ずケースを外してください。ケースを付けたままですと、接続が不完全になり、正常に操作や再生ができない場合があります。
- お使いになるiPod ／ iPhoneに適合するドックアダプターを使用してください。不適合なドックアダプターを使用すると、双方のコネクターを破損することがあります。
- iPod ／ iPhoneのUSBモードに対応していない機種に関しては、本機に装着しても充電されません。また、本体およびリモコンの**PLAY/PAUSE**ボタンを押しても再生されません。iPod ／ iPhone本体で再生操作を行った場合には、本機からアナログ出力されます。
- Lightning ー 30ピンアダプターを使用して、本機に装着しないでください。再生音が出力されない、iPod ／ iPhoneのコントロールおよび充電ができないことがあります。

メモ

- 本機のiPod ／ iPhoneドックにiPod ／ iPhoneを接続すると、本機の電源がオンの間は常に充電します。iPod ／ iPhoneの充電が完了すると充電を停止します。電源がオフのときは充電されません。
  充電中は、iPod ／ iPhone本体の画面に充電表示が表示されます。詳しくは、お使いのiPod ／ iPhoneの取扱説明書をご覧ください。
- Lightningコネクターと30ピンドックコネクターの両方ともiPod ／ iPhoneを接続した場合は、後に接続したiPod ／ iPhoneに対してコントロールおよび充電を行います。先に接続したiPod ／ iPhoneに対してのコントロールおよび充電は行いません。また、接続するiPod ／ iPhoneの電源がオフの状態で両方とも本機に接続し、本機の電源をオンにした場合は、Lightningコネクターに接続したiPod ／ iPhoneに対してコントロールおよび充電を行います。

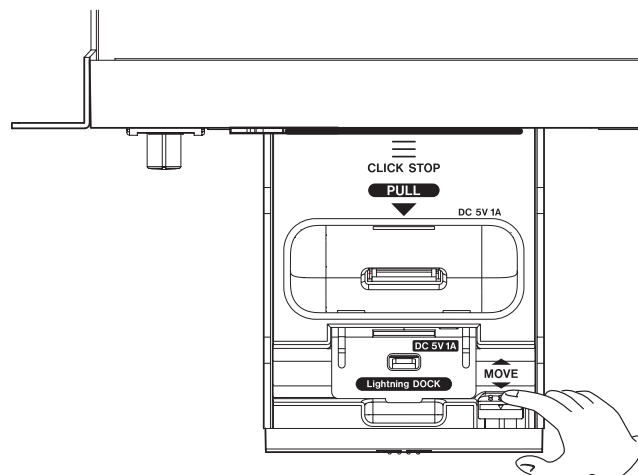
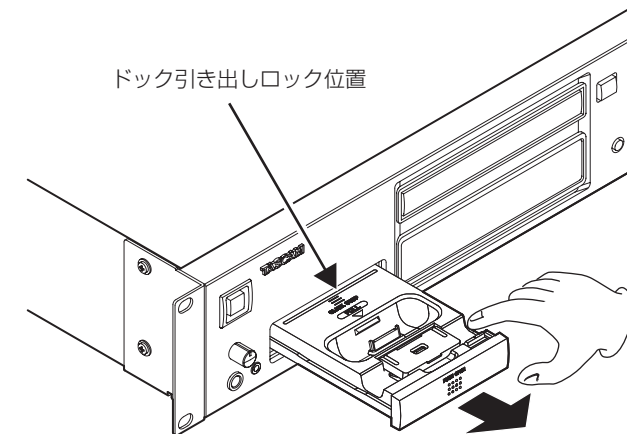
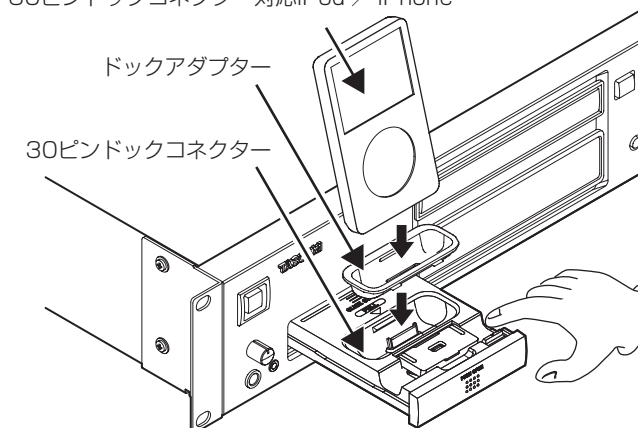
iPod ／ iPhoneドックの引き出し方法

Lightningコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続する場合

1. iPod ／ iPhoneドック中央のPUSH OPEN部を押し、ロックを解除してからiPod ／ iPhoneドックを引き出します。

2. Lightningコネクターが使用できる位置までiPod ／ iPhoneドックを引き出してロックし、バックストップを起こします。

3. Lightningコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続します。

30ピンドックコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続する場合

1. iPod ／ iPhoneドック中央のPUSH OPEN部を押し、ロックを解除してからiPod ／ iPhoneドックを引き出します。

2. Lightningコネクターが使用できる位置までiPod ／ iPhoneドックを引き出し、ロックします。

3. ロック解除レバーを引き、iPod ／ iPhoneドックのロックを解除してから、「ドック引き出しロック位置」までiPod ／ iPhoneドックを引き出します。

4. お手持ちの30ピンドックコネクター対応のiPod ／ iPhoneに適合するドックアダプターを30ピンドックコネクター部に取り付けてから、30ピンドックコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続してください。

メモ

30ピンドックコネクター対応のiPod ／ iPhoneを接続する場合は、必ずお手持ちのiPod ／ iPhoneに適合するドックアダプターをコネクター部に取り付けてください。ドックアダプターは、同梱しておりません。iPod ／ iPhoneに付属または市販のApple Inc. 製のApple　(iPod) Universal Dockアダプターをご使用ください。

注意

- iPod ／ iPhoneドックを引き出した状態で、iPod ／ iPhoneドックに上下左右の方向から圧力を加えないでください。
- iPod ／ iPhoneドックを引き出した状態で、iPod ／ iPhoneドックの上にiPod ／ iPhone以外の物を載せないでください。

iPod ／ iPhoneドックの収納方法

iPod ／ iPhoneを取り外し、iPod ／ iPhoneドック上面にあるロック解除レバーを引きながら、パネル面の**PUSH OPEN**部を押してください。

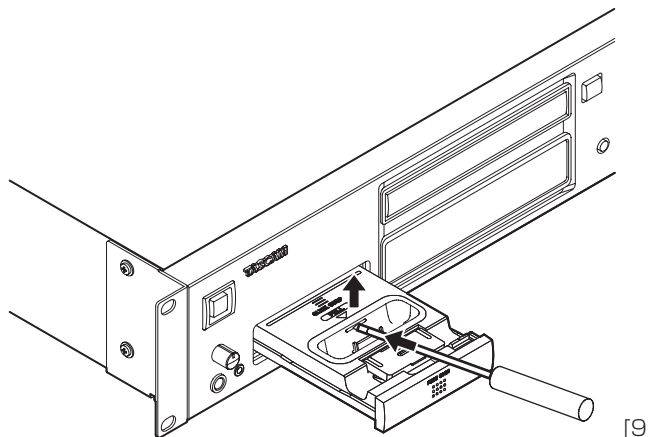
注意

iPod ／ iPhoneドックを収納するときは、必ずiPod ／ iPhoneドック上面にあるロック解除レバーを引き、ロックを解除してから、パネル面の**PUSH OPEN**部を押してください。

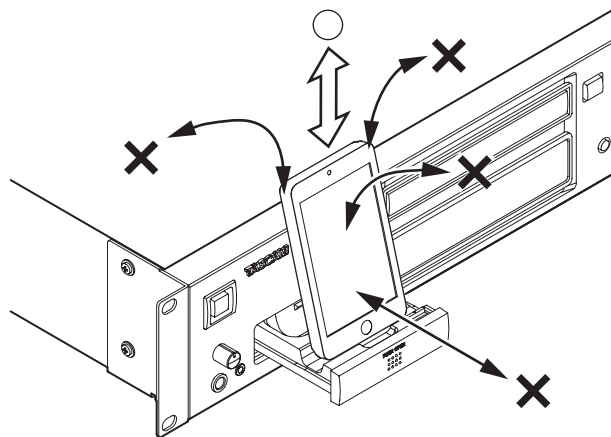
ドックアダプターの外し方

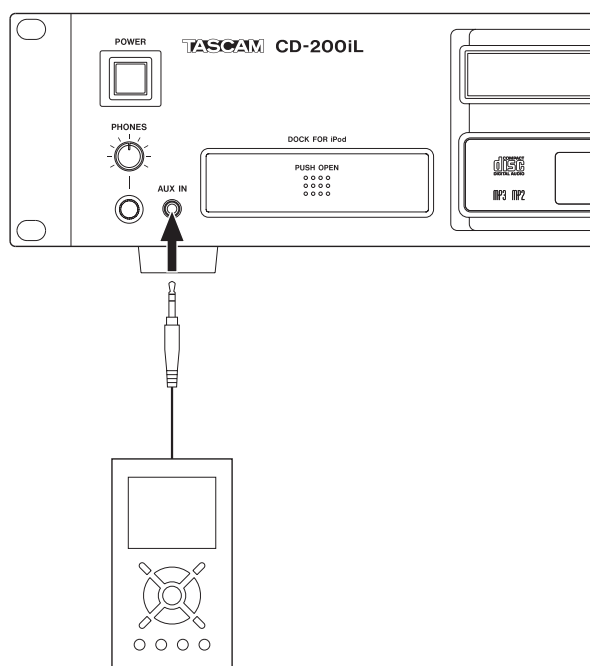
下図のようにドックアダプターの穴にマイナスドライバーを差し込み、ドックアダプターを外します。

[9

注意

- ドックアダプターを外すときは、iPod ／ iPhoneドックを手で押さえながら外してください。
- iPod ／ iPhoneドックを引き出した状態で、iPod ／ iPhoneドックに上下左右の方向から圧力を加えないでください。

iPod ／ iPhoneを取り外すには

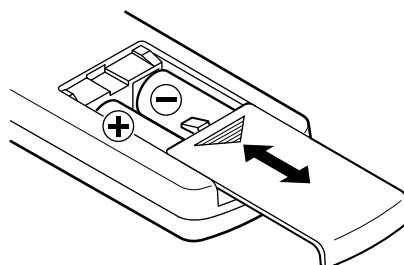
- iPod ／ iPhoneを抜き差しするときは、カレントソースを **“-DOCK-”** 以外（**“-CD-”** もしくは **“-AUX-”**）に変更するか、本機の電源をオフにしてから行ってください。
- iPod ／ iPhoneを抜き差しするときは、ドックコネクターに無理な力が加わらないように、ドックコネクターの傾きにあわせて、丁寧に行ってください。詳しくは、下図を参照してください。

[iPod ／ iPhoneの抜き差し方向図]

外部入力端子への接続

ドックコネクターを搭載していないiPodや、iPod ／ iPhone以外のオーディオプレイヤーのアナログ音声出力（ラインアウト端子やヘッドホン端子）を本機のフロントパネルのAUX IN端子に接続することによって、本機の出力端子からオーディオプレイヤーの音声を出力することができます。なお、AUX IN端子は入力レベル調節がありませんので、外部機器側の出力レベルを調節してください。

注意

- 外部機器をAUX IN端子に接続する前には、外部機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
- AUX IN端子のプラグ抜き差しは、カレントソースを **"-AUX-"** 以外（**"-CD-"** もしくは **"-DOCK-"**）に変更するか、本機の電源をオフにしてから行ってください。

リモコンを準備する

乾電池の入れ方

1. 裏側の蓋を開けます。
2. ⊕、⊖の向きに注意して、単3形乾電池を2本挿入します。
3. 蓋を閉めます。

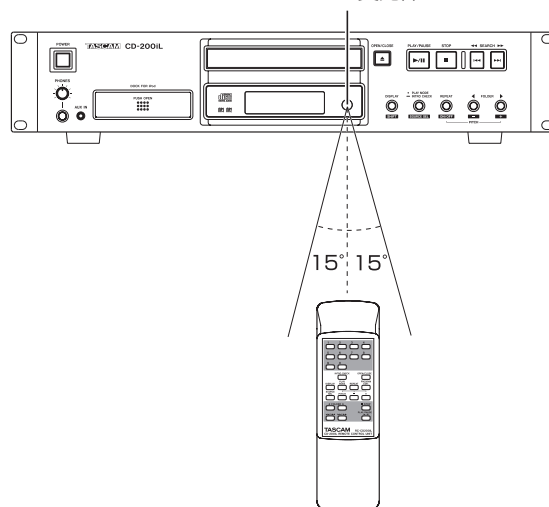
乾電池の交換時期

操作範囲が狭くなった、または操作ボタンを押しても動作しない場合は、2本同時に新しい乾電池に交換してください。
使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法にしたがって捨ててください。

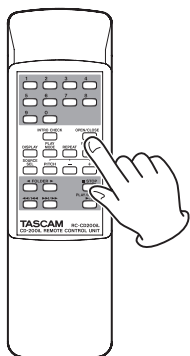
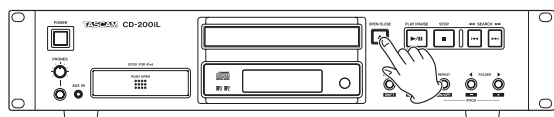
乾電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、液漏れや破裂などの原因となることがあります。乾電池の注意表示、および本書4ページを良くお読みください。

リモコン使用上の注意

- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがあります。
- リモコンは、以下の範囲内でご使用ください。

動作距離
正面：7メートル以内
左右15度以内：7メートル以内

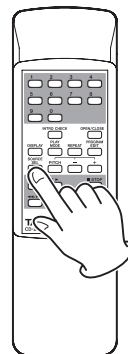
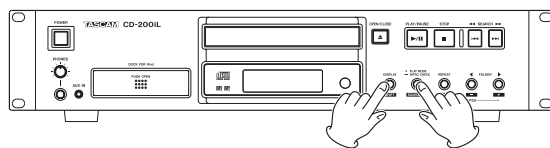
CDをセットする

CDをセットするには、本体またはリモコンの**OPEN/CLOSE**ボタンを押してディスクトレーを開き、レーベル面を上にしてディスクを載せます。
再度**OPEN/CLOSE**ボタンを押して、ディスクトレーを閉じます。
ディスクをセットすると本機がディスクの情報を読み取り、オーディオCDの場合は総トラック数と総再生時間、データCDの場合はカレントフォルダーもしくはディスク全体の総トラック数を、ディスプレーに表示します。

メモ

- カレントソースが **"-CD-"** のとき、CDトレーにディスクがセットされている状態で、**OPEN/CLOSE**ボタンの代わりに**PLAY/PAUSE**ボタンを押すと、ディスクトレーを閉じたのち再生が始まります。
- 本機を使用中にディスクトレーを開くと、以下の設定が消去されます。

  プログラム
  カレントフォルダー（データCDの場合）

出力する音源（カレントソース）を選択する

本機が出力する音声信号は、「CD」「Dock」「AUX IN」の再生ソースから選択ができます。
本体の**DISPLAY [SHIFT]** ボタンを押しながら**PLAY MODE / INTRO CHECK [SOURCE SEL]** ボタンを押す、またはリモコンの**SOURCE SEL**ボタンを押します。

この操作でカレントソースが以下の順で切り換わります。

→ CD → DOCK→ AUX IN

[カレントソース・切り換え順]

[カレントソース・**"-CD-"** 選択時のディスプレー表示]

[カレントソース・**"-DOCK-"** 選択時のディスプレー表示]

[カレントソース・**"-AUX-"** 選択時のディスプレー表示]

注意

- **"-DOCK-"** または **"-AUX-"** については、機器が接続されていない場合は選択できません。
- カレントソースを **"-CD-"** から **"-DOCK-"** に切り換えたとき、CDが再生中または再生待機中であれば、CDを停止します。また、カレントソースを **"-DOCK-"** から **"-AUX-"** に切り換えたときに、iPod ／ iPhoneが再生中であればiPod ／ iPhoneを一時停止します。

メモ

カレントソースを切り換えても、CDの再生モード設定、カレントフォルダー、プログラム内容は消去されません。

CDに収録されているトラックや音楽ファイルの再生機能を説明します。
以下の説明では、トラックや音楽ファイルが記録されたCDが本機にセットされ、本機の電源がオンになっていて、カレントソースが **"-CD-"** に設定されていることを前提にしています。（→ 18ページ「出力する音源（カレントソース）を選択する」）

再生可能なディスク／ファイル

本機は、以下のディスク／ファイルを再生することができます。

オーディオCD形式のディスク

市販の音楽CDや、オーディオCD形式で作成したCD-R、CD-RWディスクを再生できます。本書では、これらのディスクを「オーディオCD」と呼びます。

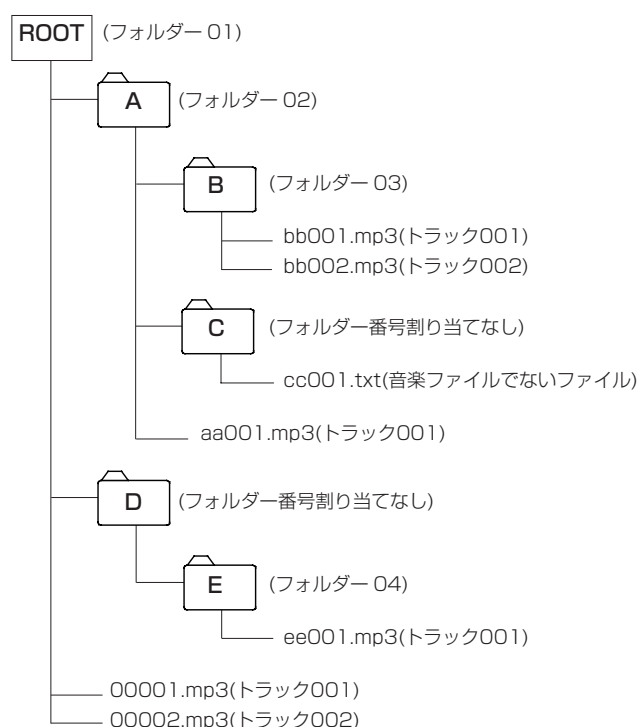
データCD形式のディスク

記録方式がISO9660 Level 1、Level 2およびJolietで、MP3ファイルやMP2ファイル、またはWAVファイルを収録したディスク（CD-ROM、CD-R、CD-RW）を再生できます。本書では、これらのディスクを「データCD」と呼びます。

メモ

- 本機は、ファイナライズされていないCD-R、CD-RWディスクは再生できません。
- 再生可能なサンプリング周波数やビットレートに関しては、巻末の「再生ファイル形式」を参照してください。
- データCD再生時、本機のデジタル音声出力信号のサンプリング周波数は、再生ディスク／再生ファイルのサンプリング周波数に関わらず44.1k Hzに変換されて出力されます。ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル音声信号を出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル音声出力信号を受信できない場合があります。
- 本機のディスプレーは、半角のアルファベットと数字（1バイト文字）しか表示することができません。ファイル名に日本語や中国語などの全角文字（2バイト文字）が使われている場合は、再生が可能ですが、"_" に置換されて表示します。
- MP3 ／ MP2ファイルの認識は、ファイル拡張子「.mp3」または「.mp2」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.mp3」または「.mp2」を付けてください。拡張子「.mp3」または「.mp2」のないファイルは、本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」または「.mp2」が付いていても、MP3またはMP2データ形式でないファイルは再生できません。
- WAVファイルの認識は、ファイル拡張子「.wav」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.wav」を付けてください。
拡張子「.wav」のないファイルは、本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.wav」が付いていても、WAVデータ形式でないファイルは再生できません。
- データCDで、1000以上のファイルまたは513以上のフォルダーが記録されたディスクは、正常に再生できないことがあります。
- ディスクの状態によっては本機で再生できない、または音が途切れることがあります。

データCDのフォルダーとトラックについて

本機は、データCD上の音楽ファイルを「トラック」として扱います。データCDの中には、パソコンのファイルの扱いと同じようにファイルをフォルダーに収納しているものがあります。さらに、いくつかのフォルダーをまとめて1つのフォルダーに収めるといった、複数階層構造のものもあります。
本機のフォルダーサーチ機能では、音楽ファイルのあるフォルダー間をフォルダーサーチ操作で相互に行き来できます。移動の順序は、階層の浅いフォルダーから階層の深いフォルダー（サブフォルダー）に向かって行く方向です。
データCDのルートに音楽ファイルがある場合は、ルートも1つのフォルダーとして扱います。
すぐ下の階層に音楽ファイルが収納されていないフォルダーには、フォルダーサーチの対象となりません。たとえば、下図のような構成のディスクの場合、フォルダー Cとフォルダー Dはフォルダーサーチの対象となりません。

《データCDの構成例》

再生モード

本機は、以下の3種類の再生モードで、トラックを再生することができます。

連続再生モード（初期設定）

CD上のトラックを番号順に再生します。

メモ

データCDでフォルダー再生機能がオンのときは、再生中のフォルダー内のトラックをトラック番号順に再生します。（→ 21ページ「フォルダー再生（データCDのみ）」）

シャッフル再生モード

CD上のトラックを、トラック番号に関係なくランダムに再生します。全トラックの再生を終えると停止します。

メモ

データCDでフォルダー再生機能がオンのときは、カレントフォルダー内のトラックをランダムに再生します。（→ 21ページ「フォルダー再生（データCDのみ）」）

プログラム再生モード

プログラムした順序でCD上のトラックを再生します。詳しくは、22ページ「プログラム再生」をご覧ください。

メモ

データCDでフォルダー再生機能がオンのときは、カレントフォルダー内のトラックがプログラム対象になります。（→ 21ページ「フォルダー再生（データCDのみ）」）

再生モードを選択する

本体のPLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL] ボタンまたはリモコンのPLAY MODEボタンを押すたびに、再生モードが切り換わります。ただし、再生中に押すと連続再生モードとシャッフル再生モードの間で切り換わります。
プログラム再生を選択するには、停止中またはCDがセットされていないときに本体のPLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL] ボタンまたはリモコンのPLAY MODEボタンを押してください。
現在選ばれている再生モードは、次のようにディスプレーに表示されます。

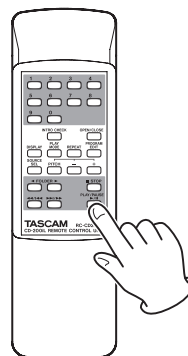
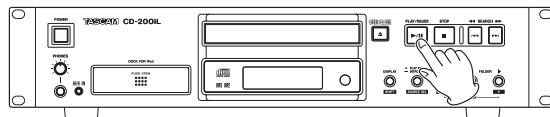
表示	再生モード
表示なし	連続再生モード
SHUFFLE	シャッフル再生モード
MEMORY	プログラム再生モード

メモ

- 選択した再生モードは、電源を切っても保持されます。
- 本体のPLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL] ボタンまたはリモコンのPLAY MODEボタンを押した直後、ディスプレーのメイン表示部にも選択した再生モードが次のように表示されます。

連続再生モード選択時　：**CONTINUE**
シャッフル再生モード選択時　：**SHUFFLE**
プログラム再生モード選択時　：**PROGRAM**

再生する

以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、CDがセットされていることを前提にしています。
CDの再生を始めるには、本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押します。

●再生を停止するには：

本体またはリモコンのSTOPボタンを押します。

●再生を一時停止するには：

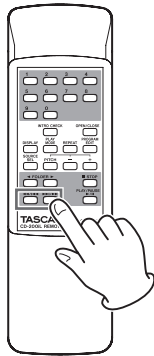
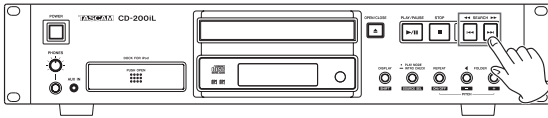
本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押します。

なお、この取扱説明書では、断わりがないかぎり、再生モードが連続再生モードに設定されているものとして説明しています。（→ 20ページ「再生モード」）

トラックを選ぶ

トラックを選ぶ方法には、前後のトラックに移動する方法（スキップ）と、トラック番号を直接指定する方法があります。

前後のトラックにスキップする

本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [⏮ ／ ⏭] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ ⏮ボタンまたは▶▶ ／ ⏭ボタン）を押します。

トラックを選択した後、本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押すと、トラックの再生が始まります。

メモ

再生中に本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [⏮ ／ ⏭] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ ⏮ボタンまたは▶▶ ／ ⏭ボタン）を押した場合は、トラックスキップ後に再生を継続します。

トラック番号を指定する

リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使用して、再生するトラック番号を直接指定することができます。
トラック番号は、オーディオCDの場合は最大2桁、データCDの場合は最大3桁です。

1. リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使って、トラック番号を入力します。トラック番号は、大きい桁の数字から順に入力します。
   - **トラック1を指定する場合：**
     1ボタンを1回押す。
   - **トラック12を指定する場合：**
     1ボタン ➡ 2ボタンの順に押す。
2. 本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押します。
   選択したトラックの再生が始まります。
   本体またはリモコンのSTOPボタンを押すと、トラック番号入力表示が消えて、もとの表示に戻ります。

メモ

プログラム、シャッフル再生モード時は、数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使ったトラック指定ができません。

早送り／早戻しサーチ

音声を聴きながらトラック内を早送り／早戻しサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または一時停止にします。
2. 本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [⏮ ／ ⏭] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ ⏮ボタンまたは▶▶ ／ ⏭ボタン）を押し続けます。
   早送り／早戻しサーチが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているボタンを放します。
   サーチを始める前の状態（再生または一時停止）に戻ります。

メモ

データCDでも早送り／早戻しサーチは可能です。

フォルダー再生（データCDのみ）

データCDの場合、フォルダー再生機能をオンにするとディスプレーのフォルダー番号表示部にフォルダー番号が表示され、指定したフォルダー（＝カレントフォルダー）を再生範囲にすることができます。
以下に説明する方法で再生するフォルダーを指定することができます。

メモ

フォルダー再生機能がオフのとき、ディスプレーのフォルダー番号表示部に **"ALL"** が表示されます。このとき、データCD全体が再生範囲になります。

再生するフォルダーを選択する

1. 本体のFOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH ー／+] ボタンまたはリモコンのFOLDER ◀ ／ ▶ ボタンを押して、ディスプレーのフォルダー番号表示部にフォルダー番号を表示させ、フォルダー再生機能をオンにします。
2. 本体のFOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH ー／+] ボタンまたはリモコンのFOLDER ◀ ／ ▶ ボタンを押して、再生するフォルダーを選択します。
   再生するフォルダーを選択後、選択したフォルダーの先頭トラックの冒頭に移動します。

メモ

- 本体のFOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH ー／+] ボタン、またはリモコンのFOLDER ◀ ／ ▶ ボタンを押し続けると、順にフォルダーを移動します。フォルダーの移動にしたがってカレントフォルダーが切り換わります。
- フォルダー再生機能がオンのときにオールリピートを行うと、カレントフォルダー内の全トラックをリピート再生します。
- フォルダー再生機能がオンのときにシャッフル再生を行うと、カレントフォルダー内の全トラックをランダムに再生します。
- フォルダー再生機能がオンのときにプログラムを組んだ場合は、カレントフォルダー内の全トラックがプログラムの対象となります。

プログラム再生

プログラム再生を行うには、再生モードをプログラム再生モードにしてからプログラムを設定するか、あるいは予めプログラムを設定してからプログラム再生モードにします。（→ 20ページ「再生モードを選択する」）

プログラム再生モード中、本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押すと、設定しているプログラムの1トラック目（プログラムステップ **“01”**）から順に再生を行います。

本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは ▶▶ ／ ▶▶Iボタン）を押すと、手前／次のプログラムステップに移動します。

プログラム再生モードでは、オーディオCDの場合は停止中にプログラム数と総プログラム時間が表示されます。データCDの場合はプログラム数のみ表示されます。

メモ

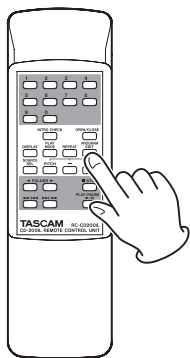
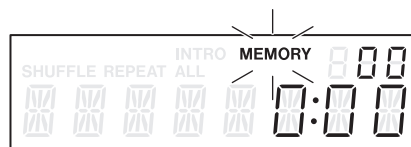
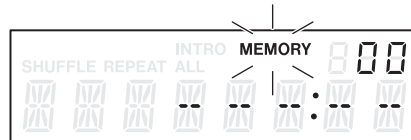
- プログラム再生を選択するには、停止中またはCDがセットされていないときに本体のPLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL] ボタンまたはリモコンのPLAY MODEボタンを押してください。
- データCDのフォルダー再生機能がオンのときにプログラムを組んだ場合は、カレントフォルダー内のトラックがプログラム対象となります。

プログラムを設定する

プログラムが設定されていない場合は、以下の手順でリモコンを使ってプログラムを設定することができます。

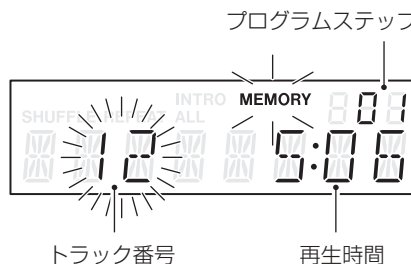
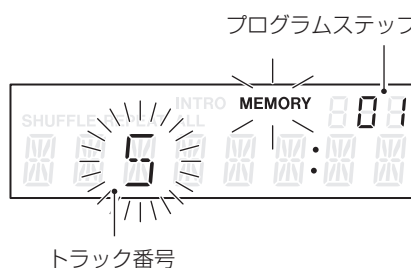
メモ

- 本体からのプログラムの設定はできません。
- 現在の再生モードに関わらず、いつでもプログラムを設定することができます。
- ディスクトレーを開く、またはカレントフォルダーを変更するとプログラムが消去されます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードを起動します。

プログラムが未設定の場合は、プログラムステップ **“01”** にトラックを登録できる状態になります（**“MEMORY”** 点滅表示）。

[オーディオCDの場合のディスプレー表示例]

[データCDの場合のディスプレー表示例]

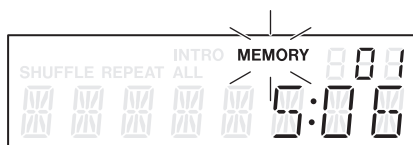
メモ

プログラムがすでに設定されている場合は、プログラムステップ **“01”** に登録されているトラック番号と再生時間が表示されます。

2. リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）またはサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶ ／ ▶▶Iボタン）を使って、プログラムステップ **“01”** に登録するトラックを選びます（**“MEMORY”** とトラック番号が点滅表示）。
   リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使った場合は、大きい桁から順に入力されます。

[オーディオCDの場合のディスプレー表示例]

[データCDの場合のディスプレー表示例]

メモ

- データCDの場合は、リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）またはサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは ▶▶ ／ ▶▶Iボタン）を押してから1秒以上経過すると、ディスプレーがファイル名表示に切り換わりますが、プログラムを設定することは可能です。
- トラックを選択した状態でSTOPボタンを押すと、トラック選択が中止され、再びトラックを選択できる状態に戻ります。

3. リモコンのPROGRAM EDITボタンを押します。
選んだトラックがプログラムステップ **"01"** に登録され、次のプログラムステップを登録できる状態になります。

4. 上記の手順2.と3.を繰り返して、希望のトラックを順次、登録して行きます。

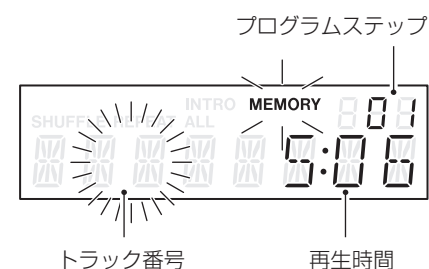
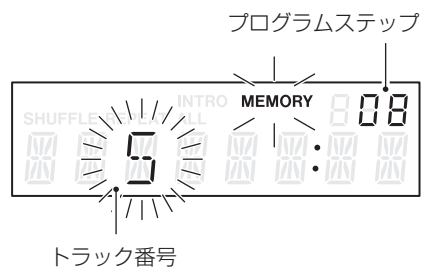
5. プログラム設定を終えたら、次のプログラムステップにトラックを登録できる状態のときに再度PROGRAM EDITボタンを押します。
プログラム設定モードを終了します。

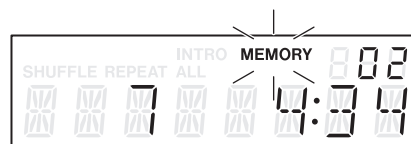
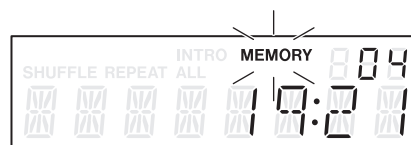
メモ

- 同じトラックを繰り返し登録することも可能です。
- 新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態のときにSTOPボタンを押すと、プログラムが全て消去されます。（→24ページ「プログラムを消去する」）
- 100トラック以上を登録しようとすると、エラーメッセージ **"PGM FULL"** が表示されます。登録できるのは99トラックまでです。

プログラムを確認する

プログラムの内容を確認することができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードにします。
ディスプレーにプログラムステップ **"01"** に登録されているトラック番号と再生時間が表示され（データCDの場合はトラック番号とプログラムステップを表示します）、**"MEMORY"** が点滅します。

[オーディオCDの場合のディスプレー表示例]

[データCDの場合のディスプレー表示例]

2. PROGRAM EDITボタンを押すたびに、次のプログラムステップの登録トラック情報が表示されます。

3. 最後のプログラムステップを表示中にPROGRAM EDITボタンを押すと、トラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、**"MEMORY"** が点滅している状態）になります。

4. 再度PROGRAM EDITボタンを押すと、プログラム設定モードを終了します。

プログラムトラックを差し替える

すでに登録されているトラックを差し替えることができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードにします。

2. 上記「プログラムを確認する」にしたがい、PROGRAM EDITボタンを押して、トラックを差し替えたいプログラムステップを表示します。

3. リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）またはサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶ ／ ▶▶Iボタン）を使って希望のトラックを選択し、PROGRAM EDITボタンを押します。
差し替えが完了し、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態になります。

4. 再度PROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードを終了します。

プログラムトラックを追加する

設定されているプログラムの最後に、トラックを追加することができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードにします。

2. PROGRAM EDITボタンを押し続けて、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、**"MEMORY"** が点滅表示）にします。

3. リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）またはサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶ ／ ▶▶Iボタン）を使って追加するトラックを選択し、PROGRAM EDITボタンを押します。

4. この状態で手順3.と同じ操作を行うと、さらにトラックを追加することができます。
プログラム設定モードを終了するには、PROGRAM EDITボタンを押します。

メモ

- プログラムの最後にトラックを追加する、またはプログラムトラックを差し替えることはできますが、プログラムの途中にトラックを挿入することはできません。
- プログラムの途中にトラックを挿入したい場合は、プログラムトラックの差し替えと追加を使って、プログラムの内容を修正してください。

プログラムを消去する

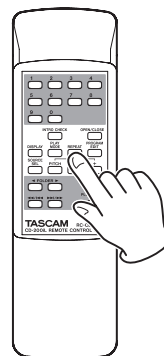
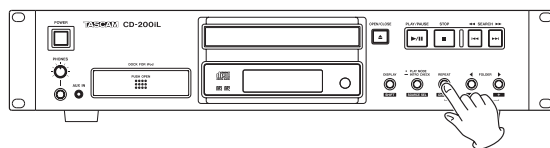
設定されているプログラム全体を消去することができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードにします。
2. PROGRAM EDITボタンを押して行って、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、**“MEMORY”** が点滅表示）にします。
3. STOPボタンを押します。
   ディスプレーに **“-CLEAR-”** を表示してプログラムが消去された後、プログラム未登録時のプログラム設定モードになります。

メモ

上記の他に、ディスクトレーを開いた場合もプログラムが消去されます。

リピート再生

選択したトラック、あるいは全トラックを繰り返し再生することができます。
本体のREPEAT［PITCH ON/OFF］ボタンまたはリモコンのREPEATボタンを押して、リピート再生機能のオン／オフとリピート再生モード選択します。

→ シングルリピート → オールリピート → リピートオフ

［リピート再生モード・選択順］

- **シングルリピート（ディスプレーに “REPEAT” が点灯）**
  選択したトラックをリピート再生します。

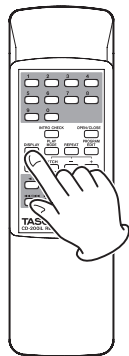
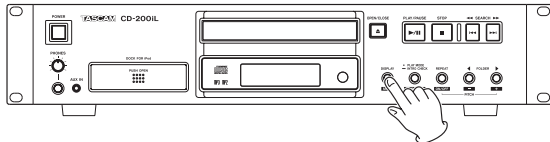
- **オールリピート(ディスプレーに “REPEAT” と “ALL” とが点灯)**
  全トラックをリピート再生します。

- **リピートオフ（表示なし）**
  リピート再生しません。

メモ

- データCDでフォルダー再生機能がオンのときにオールリピートを行うと、カレントトラック内の全トラックをリピート再生します。
- プログラム再生モード中は、設定したプログラム内の全トラックをリピート再生します。
- 再生中にリピート再生機能をオンにした場合は、そのまま再生を続け、最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。
  停止中にオンにした場合は、PLAY/PAUSEボタンを押すとリピート再生が始まります。
- リピート再生機能のオン／オフ設定は、電源を切っても保持されます。

時間や文字情報の表示

ディスプレーに表示される時間表示や文字情報の内容を選択することができます。
本体のDISPLAY［SHIFT］ボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを押すと、ディスプレーのメイン表示部に現在表示されている情報（再生時間や文字情報）の種類が2秒間表示されます。
その間に再び本体のDISPLAY［SHIFT］ボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを押すと、表示情報の種類が切り換わります。
なお、セットしているディスクの種類や状態、および本機の動作状態によって、切り換わる表示情報の種類が異なります。

CDテキストを含むオーディオCD

再生中／一時停止中は、「トラック経過時間→トラック残時間→総残時間→トラックタイトル→トラックアーティスト→」の順に表示する情報を切り換えることができます。
停止中も表示を切り換え可能ですが、「総時間→アルバムタイトル→アルバムアーティスト→」の順に切り換わります。

CDテキストを含まないオーディオCD

再生中／一時停止中は、「トラック経過時間→トラック残時間→総残時間→」の順に表示する情報を切り換えることができます。
停止中も表示を切り換え可能ですが、総トラック数と総時間を表示します。

データCD

再生中／一時停止中は、「トラック経過時間→トラックタイトル→トラックアーティスト→ファイル名→」の順に表示する情報を切り換えることができます。
停止中は、「総トラック数→アルバムタイトル→」のみ切り換えできます。停止中、タイトルに切り換えた場合はアルバムタイトル（カレントフォルダー）を表示し、それ以外は総トラック数を表示します。

メモ

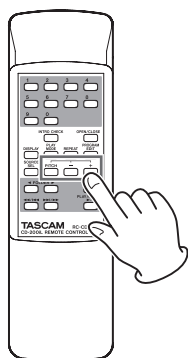
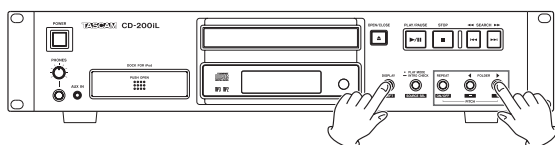
- 本体のDISPLAY［SHIFT］ボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを押してから2秒間、ディスプレーのメイン表示部に、現在選択中の表示情報の種類が以下のように表示されます。

  トラック経過時間：**“ELAPSED”**
  トラック残時間：**“REMAIN”**
  総残時間：**“T REMAIN”**
  アルバム／トラックタイトル：**“TITLE”**
  アルバム／トラックアーティスト：**“ARTIST”**
  ファイル名：**“FILENAME”**

- ディスプレーに表示される文字情報は、オーディオCDの場合はCDテキスト情報、データCDの場合はID3タグ情報です。
  これらの情報がディスクやファイルに記録されていない場合は、**“NO TITLE”**（タイトル情報のとき）か **“NO NAME”**（アーティスト情報のとき）と表示します。情報に表示できない文字が含まれている場合は、該当文字を “_” に置換して表示します。
- オーディオCDでのプログラム再生モード中は、プログラム全体の経過時間や残時間を表示します。
- 表示内容の設定は、電源を切っても保持されます。

ピッチコントロール再生

本機では、CDのピッチ（音の高さと再生の速さ）を変えて再生することができます（ピッチコントロール再生）。
ピッチコントロール再生を行うには、以下の操作を行います。

1. 本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらREPEAT [PITCH ON/OFF] ボタンを押すか、リモコンのPITCHボタンを押して、ピッチコントロール機能をオンにします。
ディスプレーに現在のピッチコントロール値が表示されます。

2. 本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながら本体のFOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH ー／+] ボタンを押すか、リモコンのPITCH ー／+ボタンを押してピッチを設定します。
-14%～+14%（0.5%単位）の範囲で設定することができます。

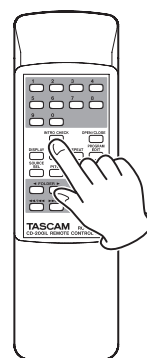
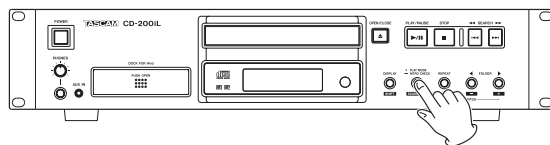
ピッチコントロール機能をオフにするには

本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらREPEAT [PITCH ON/OFF] ボタンを押すか、リモコンのPITCHボタンを押します。

メモ

- 再生中にピッチコントロール機能のオン／オフを切り換えると、再生音が一瞬途切れることがあります。
- データCD（MP3、MP2、WAV）をピッチコントロール再生すると、再生音が途切れる場合があります。
- ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。
- ピッチコントロール機能は、iPod ／ iPhoneには使用できません。

イントロチェック機能

イントロチェック機能は、CDに収録されている各トラックの冒頭部分を10秒間、自動的に次々と再生する機能です。
再生中あるいは停止中に本体のPLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL] ボタンを押し続ける、またはリモコンのINTRO CHECKボタンを押すと、ディスプレーに **"INTRO"** が表示され、イントロチェック再生を開始します。

- イントロチェック再生中に本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶ ／ ▶▶Iボタン）を押すと、前後のトラックへ移動します。
- イントロチェック再生を停止するには、本体またはリモコンのSTOPボタンを押します。

イントロチェック機能をオフにするには

イントロチェック再生中に再度、本体のPLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL] ボタンを押し続ける、またはリモコンのINTRO CHECKボタンを押すと、ディスプレーの **"INTRO"** 表示が消えて通常の再生モードに戻ります。

メモ

- データCDについても、イントロチェック再生が可能です。
- プログラム再生モードやフォルダー再生機能がオンの場合も、イントロチェック再生が可能です。
- イントロチェック機能は、iPod ／ iPhoneには使用できません。

フロントパネルのiPod ／ iPhoneドックにiPod ／ iPhoneを装着することにより、本機からiPod ／ iPhoneの音声を出力したり、iPod ／ iPhoneをコントロールすることができます。また、本機の電源が入っていれば､iPod／iPhoneを充電することもできます。（→ 14ページ「iPod ／ iPhoneの接続」）

iPod ／ iPhoneドックについて

14ページ「iPod ／ iPhoneの接続」の説明にしたがって、iPod ／ iPhoneを取り付けてください。
必ずお手持ちのiPod ／ iPhoneに適合するドックアダプターをコネクター部に取り付けてください。
ドックアダプターは、同梱しておりません。iPod ／ iPhoneに付属または市販のApple Inc. 製のApple Universal Dockアダプターをご使用ください。

- iPod ／ iPhoneの取り付け取り外しには、コネクターを破損しないよう、または突然大きな音が出ることのないよう、14ページ「iPod ／ iPhoneの接続」を良くお読みになり、十分注意して行ってください。
- 本機の対応機種についての詳細は、TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）をご参照ください。

iPod ／ iPhoneのコントロール

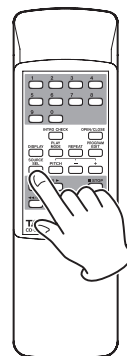
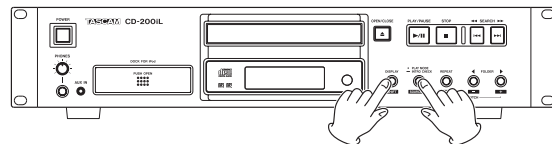
本機のフロントパネルまたは付属のワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200iL）から、iPod ／ iPhoneに対して以下のコントロールが可能です。

PLAY/PAUSEボタン（►/❚❚）　：再生／一時停止
スキップボタン（◄◄ ／ ❙◄◄ボタンまたは►► ／ ►►❙ボタン）
　　：前へ／次へ、ボタンを押し続けると早戻し／早送り
FOLDER ◄ ／ ► ボタン：アルバムスキップ
REPEATボタン　：リピート再生モードの切り換え
PLAY MODEボタン　：シャッフル再生モードの切り換え

注意

- iPod ／ iPhoneのソフトウェアのバージョンおよびiPod ／ iPhoneの世代によっては、本機で操作ができない場合があります。詳細については、TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）をご参照ください。
- 接続されるiPod ／ iPhoneによっては、iPod ／ iPhone本体とCD-200iL本体の **“SHUFFLE”**、**“REPEAT”** 表示に不一致が生じる場合があります。現在のiPod ／ iPhoneの再生モードおよびリピート再生モードの確認は、iPod ／ iPhone本体で行ってください。

iPod ／ iPhoneの再生

本体の**DISPLAY [SHIFT]** ボタンを押しながら**PLAY MODE ／ INTRO CHECK [SOURCE SEL]** ボタンを押す、またはリモコンの**SOURCE SEL**ボタンを押して、カレントソースの設定を **“-DOCK-”** にします。

これで、本体または付属のワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200iL）で、iPod ／ iPhoneのコントロール、および本機からiPod ／ iPhoneの再生音声出力が可能になります。

第6章　メッセージ一覧

動作メッセージ

本機の動作に応じて、ディスプレーのメイン表示部に以下のメッセージが表示されます。

メッセージ	メッセージ表示 点灯／点滅	内容	対処方法
-AUX-	点灯	カレントソースとして **"-AUX-"** が選択されています。	
-CLEAR-	点灯	プログラムを全て消去しました。	
CLOSE	点灯	ディスクトレーを閉じています。	
-DOCK-	点灯	カレントソースとして **"-DOCK-"** が選択されています。	
DOCK----	点灯	iPod ／ iPhoneが装着されていません。	iPod ／ iPhoneが装着されていてもメッセージが示される場合には、一度iPod ／ iPhoneをiPod ／ iPhoneドックから抜き、しばらくしてからiPod ／ iPhoneを差し込んでください。
DOCK-30-	点灯	30ピンドックコネクター対応のiPod ／ iPhoneが装着されています。	
DOCK-LT-	点灯	Lightningコネクター対応のiPod ／ iPhoneが装着されています。	
NO DISC	点灯	ディスクがありません／ディスクを検出できません。	
NO FILES	点灯	ディスクに再生可能なファイルが1つもありません。	再生可能なファイルが記録されたデータCDをセットしてください。
NO NAME	点灯	表示可能なアーティストデータ／ファイルデータがありません。	表示できる文字情報は7bit ASCII相当の文字のみです。
NO TITLE	点灯	表示可能なタイトルデータがありません。	表示できる文字情報は7bit ASCII相当の文字のみです。
OPEN	点灯	ディスクトレーが開いています。	
TOC READ	点灯	TOC情報を読み込んでいます。	

警告メッセージ

操作を受け付けない場合は、以下のような警告メッセージを表示します。警告メッセージは、約2秒間表示された後、自動的に消えます。

メッセージ	メッセージ表示 点灯／点滅	内容	対処方法
NO PGM	点灯	プログラムが設定されていません。プログラムを設定してください。	
PGM FULL	点灯	プログラムの登録がいっぱいです。	プログラム登録は、99トラックまでです。 プログラムを消去してから登録し直してください。

エラーメッセージ

以下のエラーメッセージが表示されたときは、対応方法を参考に原因を解消してください。それでも改善しない場合は、ティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。

メッセージ	メッセージ表示 点灯／点滅	内容	対処方法
COMM ERR	点滅	CDドライブとの通信ができません。	ティアック修理センターにご相談ください。
COMM ERR	点灯	CDドライブとの通信でエラーが発生しています。	ティアック修理センターにご相談ください。
DEC ERR	点灯	サポート外のファイルであるか、ファイルを再生できません。	データCDを交換してください。
DISC ERR	点灯	TOCやファイルシステムが読み出せないか、フォーカス調整ができません。	ディスククリーニングするか、交換してください。
DRV ERR	点灯	CDドライブのハードウェアが故障しています。	ティアック修理センターにご相談ください。
READ ERR	点灯	CDの曲にアクセスできません。	ディスククリーニングするか、交換してください。

第7章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。

↓

- 本機の電源プラグが適切な電源が来ているコンセントにしっかりと差し込まれていますか?

リモコンから操作できない。

↓

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか?

音が出ない。

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。
- アンプの音量や設定を確認してください。

雑音がする。

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていませんか?

CDを再生できない。

↓

- MP3ファイルまたはMP2ファイルを収録したデータCDの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。
- ディスクに傷や汚れが付いていませんか?

データCDを全部再生できない。

↓

- フォルダー再生機能がオンになっていませんか?

音が途切れる、雑音がする。

↓

- iPod ／ iPhoneで音楽再生以外のアプリケーションが動作している場合は音が途切れる場合があります。
  その場合は音楽再生以外のアプリケーションの動作を止めてください。

iPod ／ iPhoneをiPod ／ iPhoneドックに差し込めない。

↓

- 本機のiPod ／ iPhoneドックに正しいドックアダプターが取り付けられているか確認してください。
- 本機のiPod ／ iPhoneドックにゴミやほこりが付着していないか確認してから、再度iPod ／ iPhoneを差し込んでください。

iPod ／ iPhoneの操作ができない。

↓

- iPod ／ iPhoneが本機のドックコネクターに正しく接続されていますか?
- 本機の電源プラグがしっかりと差し込まれていますか?
- カレントソースの設定が **"-DOCK-"** になっていますか?
- iPod ／ iPhoneのHOLDスイッチを解除してください。
- 一度iPod ／ iPhoneをiPod ／ iPhoneドックから抜き、しばらくしてからiPod ／ iPhoneを差し込んでください。
- iPod ／ iPhoneのソフトウェアをアップデートすることで問題が解決する場合がありますので、アップルのホームページにアクセスして、最新情報を確認してください。

iPod ／ iPhoneの音が出ない。

↓

- iPod ／ iPhoneは再生していますか?
- iPod ／ iPhoneが本機のドックコネクターに正しく接続されていますか?
- 本機の電源プラグが適切な電源が来ているコンセントにしっかりと差し込まれていますか?

第8章　仕様

定格

対応ディスク

CD、CD-R、CD-RW
（12cm、8cm、マルチセッション、CDテキスト対応）

再生ファイル形式

CD-DA：44.1kHz、16bitステレオ
MP2：32k/44.1k/48kHz、32kbps ～ 384kbps（データCD）
MP3：32k/44.1k/48kHz、32kbps ～ 320kbps、VBR（データCD）
WAV：8k/16k/32k/11.025k/22.05k/44.1k/12k/24k/48kHz、8/16bit（データCD）

入出力定格

アナログオーディオ入力定格

AUX IN端子

コネクター：3.5mmステレオミニジャック
基準入力レベル：-20dBV
最大入力レベル：-4dBV
入力インピーダンス：22kΩ

アナログオーディオ出力定格

ANALOG OUTPUT（UNBALANCED）端子

コネクター：RCAピンジャック
出力インピーダンス：200Ω
CD基準出力レベル：-10dBV
CD最大出力レベル：＋6dBV

PHONES端子

コネクター：6.3mm（1/4'）ステレオ標準ジャック
最大出力：20mW+20mW以上（THD+N 1%以下、32Ω負荷）

デジタルオーディオ出力定格

DIGITAL OUTPUTS（COAXIAL）端子

コネクター：RCAピンジャック
対応信号フォーマット：IEC-60958-3民生用規格準拠（S/PDIF）
出力インピーダンス：75Ω

DIGITAL OUTPUTS（OPTICAL）端子

コネクター：TOS（JEITA RC-5720C）
対応信号フォーマット：IEC-60958-3民生用規格準拠（S/PDIF）

オーディオ性能

周波数特性

20Hz ～ 20kHz、±1.0dB（再生時、JEITA）

S/N比

90dB以上（再生時、JEITA）

歪率

0.01%以下（再生時、JEITA）

ダイナミックレンジ

90dB以上（再生時、JEITA）

チャンネルセパレーション

90dB以上（再生時、JEITA）

バックアップメモリー

本機は電源をオフにしても、以下の設定をバックアップします。

時間／タイトル表示設定（CD）
再生モード（CD）
プログラム（CD、ディスク挿入時）
カレントフォルダー（CD、ディスク挿入時）
カレントソース
リピート再生機能の設定（オン／オフ、CD）
ピッチコントロール（オン／オフ、CD）
ピッチコントロール値（CD）

一般

電源

AC100 V、50/60Hz

消費電力

15W

外形寸法

481 x 94.5 x 298mm（幅 x 高さ x 奥行き）

質量

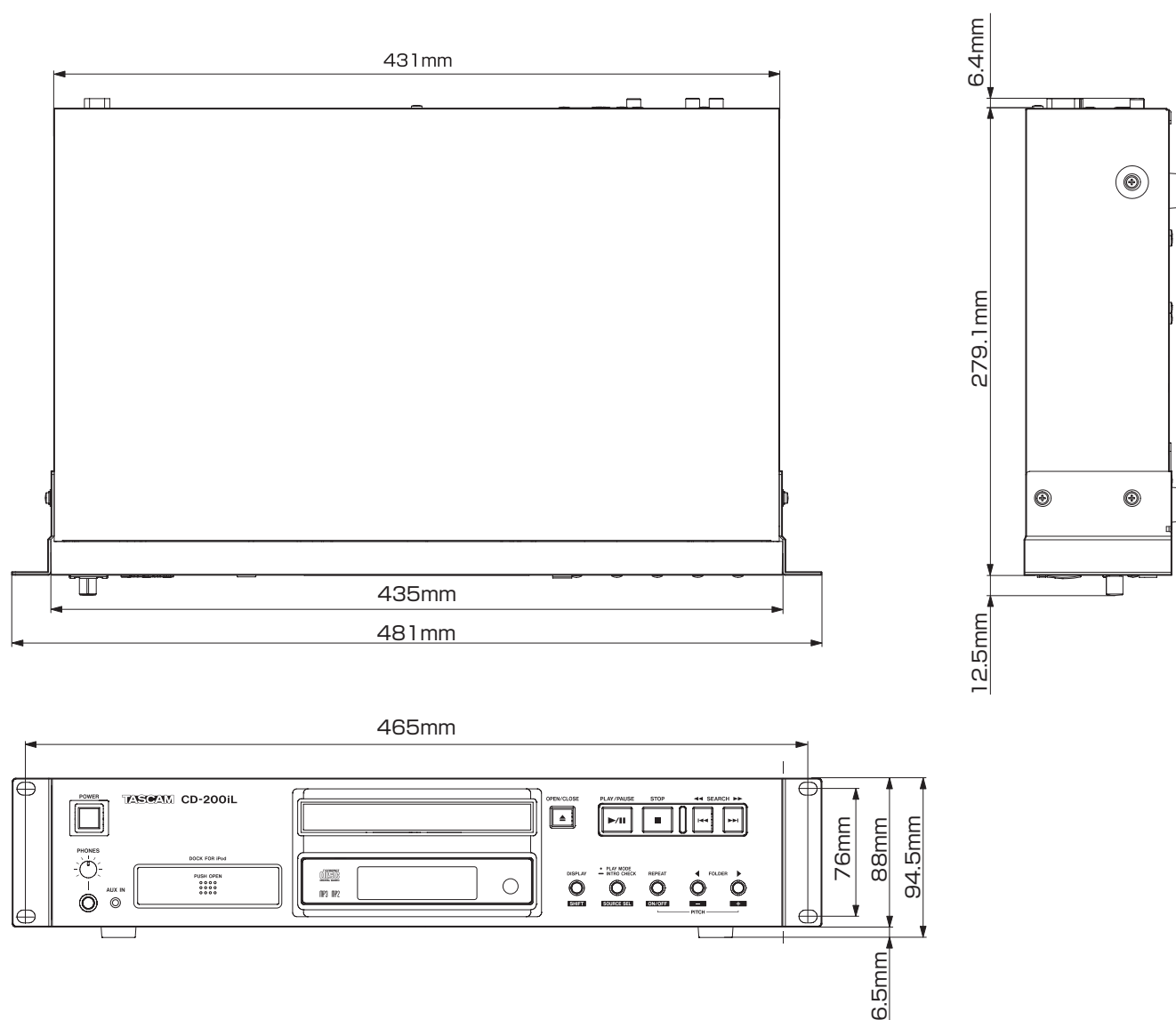
5.2Kg

動作温度

5 ～ 35℃

設定時傾斜

5度以内

寸法図

● 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

● 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00 ～ 12:00 ／ 13:00 ～ 17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530　東京都多摩市落合1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30 ～ 17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026　埼玉県入間市小谷田858

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

TASCAMのウェブサイト　**http://tascam.jp/**

Printed in China